

入舟 コミ協だより

第24号

発行: '19.9.20

発行所: 入舟地区

コミュニティ協議会

責任者: 田村 幸夫

TEL 223-3532



「北部総合コミュニティセンター移転」 コミ協会長 田村 幸夫

(1) 7月13日10:30、中央区北部総合コミュニティ
センター開館式

入舟小、栄小、豊照小、及び湊小の4校が統合しスタートした日和山小が、新校舎(旧栄小)に移動して丸2年。残った旧入舟小学校校舎の内部改造が終了し、新コミセンがオープンした。

当日は来賓約40名の参加のもと、新潟柳都中学の吹奏楽が花をそえた。参加者代表の中原市長は「地域づくりの場として活用してほしい」とあいさつした。その後、約200人の参加者は施設を内覧したり、出店をたのしんでいた。

(2) 移転した施設;

(2-1) コミセン: 活動室8室、和室4室、大ホール4、小ホール2、音楽室、調理室、武道場、体育館

(2-2) 図書館: 延床面積 215㎡、蔵書数13,000冊、閲覧席33席、(うち個人学習席7席)

(2-3) コミ協事務室: 延床面積 70㎡ 30名程度の会議が開催できる。コピー機、パソコン、事務机を常備し、事務処理の利便性が高い。

(2-4) その他の施設: 入舟連絡所、保育室、

なお、同敷地内に中央消防署の附船出張所(今月着工。3月末完成予定)及び中央署の柳都交番(詳細未定)の移設が決まっている。



連絡所入口



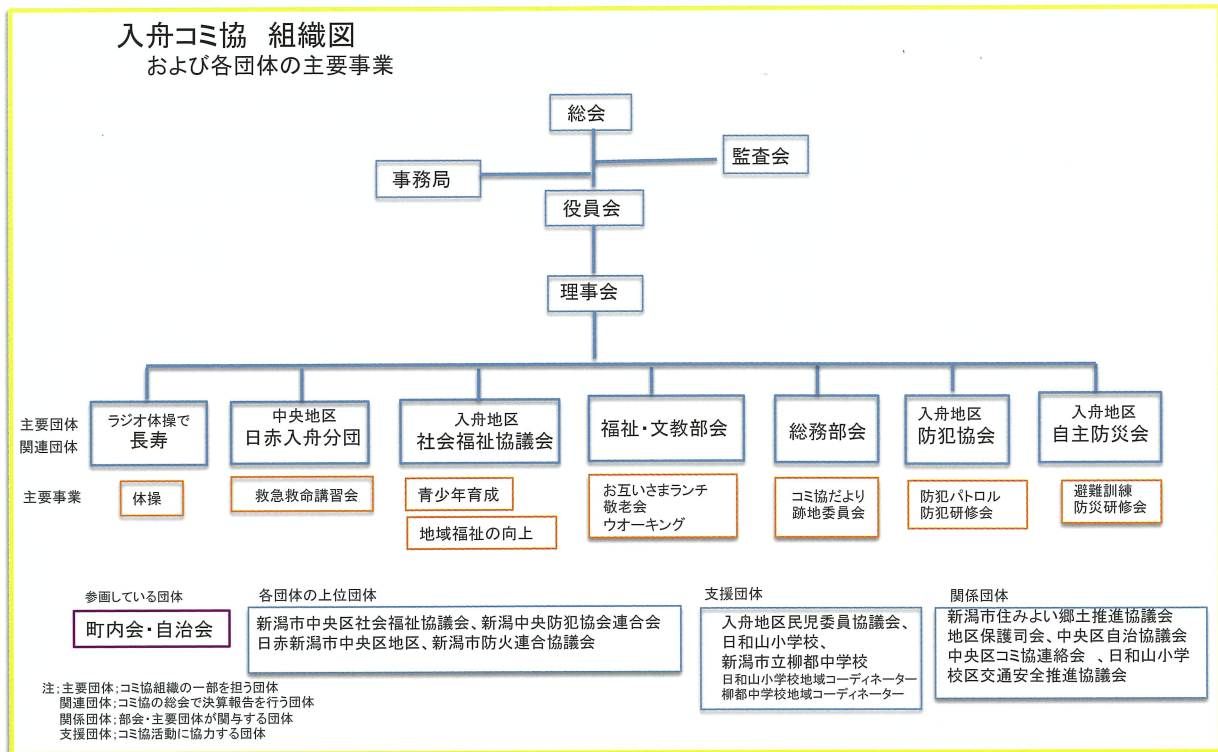
図書館



コミ協事務室

6.9 コミ協の会則が改訂された。それによる組織図を以下に示す。

19.6.9



コミ協	(会長) 田村 幸夫 (副会長) 鈴木 喬、久保田文博、高橋 誠一 (会計) 星 尚子 (監事) 西方 一成、本田 雄三						
団体名	長寿の会	日赤入舟分団	社会福祉協議会	福祉・文教部会	総務部会	防犯協会	自主防災会
会長	本田雄三	宮田 みち子	稲野 實	鈴木 正雄	中川 光男	高橋 誠一	玉木幸一
副会長	中野清吾 小野黎子	岩田 豊 豊島 裕美子	田村 幸夫	田村 宏子 稲野 實	高山 ゆり子 小島 良子	阿部 幹雄 桜井千賀子	高橋 誠一 久保田文博 豊島 裕美子

「健康寿命延伸アワード」でグランプリ ラジオ体操で長寿の会 本田 雄三

(1)新潟市はH30年度の優秀な健康づくりの活動をする団体を発表した。

コミュニティ協議会が対象のコミ協部門で当「入舟地区コミュニティ協議会」、市民団体や企業が対象の一般部門では「新潟医療生活協同組合」(東区)がそれぞれグランプリとなった。今年で2回目のコミ協部門には50団体が参加したが、当コミ協は昨年の準グランプリに続き、栄えある受賞となった。



新潟市健康寿命延伸アワード



- (2)活動内容;ラジオ体操、筋力トレーニングを週1回実施し、脳力アップのエクササイズ等で体力・脳力アップのエクササイズを目指す活動。
- (3)受賞のポイント;介護予防を目的とした独自プログラムのほか「脳トレ」など認知症予防を取り入れる等、積極的な姿勢が評価された。
- (4)参加者;当コミ協3,519名(昨年1,620名)準グランプリの岩室コミ協2,494名、上所コミ協2,252名。<当コミ協の内訳;ラジオ体操2,436、笑いヨガ422ランチ507、ウォーキング154>

「地域の安全は地域で守る」

入舟地区防犯協会 副会長 阿部幹雄

入舟地区コミュニティ協議会には7部門有り、その1部門に入舟地区防犯協会が有ります。

防犯・交通安全を担っていて、この地域に犯罪が起こらないように、各自治・町内会が決められた日程(年間)で「役員定例会6回」「合同パトロール4回」「街頭指導15回」を実施しています。又、自主的に自身の地域で毎日街頭指導を実施しているパトロール推進委員もいます。

私は自分の町は自分で守る意識で、毎朝防犯パトロール、美化清掃、街頭指導及び年金支給日に特殊詐欺防止活動を実施しています。不定期では有りますが入舟地区の青パト巡回及び夜間の防犯パトロールも実施しています。

特に重要な事は、子供を犯罪から守る為には、先ず学校が防犯カメラを設置する事だと思います。安心安全対策はどれだけやってもやり過ぎる事はないと考えからです。

「安心安全は地域と学校が協働で有れ」

*警察からも、これらの取り組み及び活動が抑止力と成り、不審者を寄せ付けない地域として効果が有ると、賛同を得ております。

出所;中央区『地域防犯』活動事例集、H31.3,P8~11、新潟市中央区自治協議会

平成31年に発行されました活動事例集の内容を紹介する。

1.青色回転灯を使用した防犯パトロール。

パトロール範囲は中央区全域で、主として日和山小学校区で登下校時の子供の見守り及び夜間の防犯パトロールを実施しています。



2,特殊詐欺被害防止活動

戸別訪問や、チラシ配布などで買い物客へ詐欺被害防止の喚起 (清水フード&西湊町通三・四自治会)



「山形沖地震による避難状況、他」

自主防災会会長 玉木 幸一

(1)6月18日夜、山形県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生した。「約1mの津波」との津波注意報が発令され、業務防災無線で「避難して下さい」と放送された。柳都中には防災訓練時より多い住民(約800名)が避難していた。

施設管理者により体育館の開放や4階部分の使用許可が手際よくとられた。体育館に6~7割方(集合していたが4階以上に進む人には比較的若い年齢層(中、高生)が多く確認された。町内旗を先頭に集団で避難してきた町内会があり、訓練が実った感があった。

大半の人は個人で体育館の場所を確保していたので、校内放送で町内会単位になる様呼びかけたが理解されなかった。訓練に参加していれば、町内会単位の必要性が理解できたのではないのでしょうか。



その他の留意点 ①平時からの緊急避難袋の準備 ②目標とする避難所の選定(コミセン又は柳都中、緊急時は一時避難場所) ③自宅から避難所までの避難路(バス通りを基幹道路とする避難ルート)の確認。

(2)「避難マップの作成」

津波版津波自主避難マップを作成するため、学習会を兼ねた第1回ワークショップ(6.25)が開催された。参加者は約20名。新潟大学のト部教授より津波による危険や地域の特性について解説を受けた。地図に盛り込む要素について話し合い、避難ルートはバス通りを基幹避難路とした。

第2回目のワークショップは8.22に開かれ、具体的に避難ルートについてそれぞれ町内の立場で議論した。

上図はその過程に提案された一つの素案を示す。

コミ協の活動状況

総務部会 高山ゆり子

- ①4.6 ラジオ体操で「長寿」総会
- ②5.19 第42回お互いさまランチ (参加82名)
- ③6.9 入舟地区コミュニティ協議会第15回総会
(参加 54 名)同日 中央地区日赤入舟分団
総会、入舟地区社会福祉協議会総会、入舟地
区防犯協会総会、入舟地区自主防災会総会
- ④6.15 春期合同安全パトロール (参加 名)
- ⑤6.25 ハザードマップ説明会 (参加20名)

- ⑥7.7 第43回お互いさまランチ (参加75名)
- ⑦7.15 海岸一斉清掃
- ⑧7.29 ビーチライフ・イン新潟
- ⑨7.18 跡地委員会 (参加22名;説明役 消防局5
名、現場担当2名)
- ⑩9.15(予)夏期合同安全パトロール (参加 名)
- ⑪9.16(予) 敬老会/お互いさまランチ(参加 名)
- ⑫9.30(予) コミ協だより第24号発刊
- ⑬10.6(予)ふれあいウォーキング(参加 名)

「新消防署についての説明」

- (1)日時;19.7.18(木)18:30~19:30
- (2)会場;北部総合コミュニティセンター
- (3)出席者;消防局 総務課課長補佐 平井 仁
同課施設係 係長井本卓也、主任小林大剛、
警防課消防団係 係長 植木浩司、主任 佐野 仁
現場担当;藤田組 ;岩橋晶雄、
建設部 清水大介
跡地委員13名

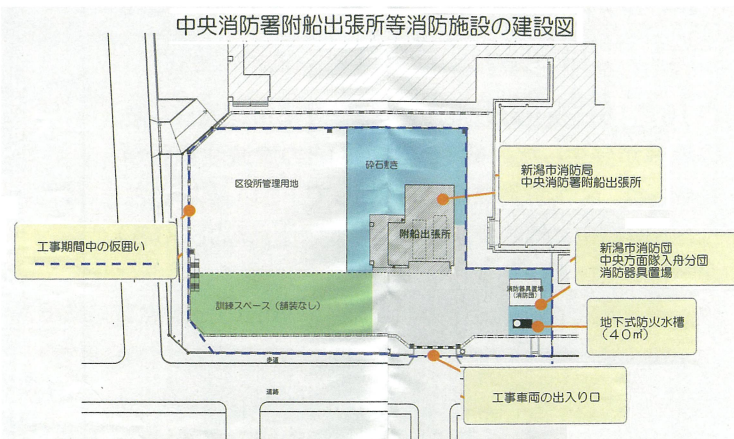
- (4)議題;<消防署附船出張所及び入舟分団
消防器具置場の建設に関わる進捗状況>
(5-1)18.8.7新消防署の構想を、同11.6
基本設計図を説明してきた。今回は入札が終
わり、施工業者が決まったので、スケジュール
とともに説明する。
(5-2)建設図のように、建物はグラウンドの南
側に配置し、昨年説明と変わらない。1階は車
庫、倉庫、2階は署員の生活スペース。ただ
し、前回説明で消防設備周辺を全面舗装す
ることになっていたが全体を3分割して、

灰色;消防署全面(舗装)、水色:周辺(採石敷き)、緑
色;訓練スペース(舗装なし)である。

区役所管理用地は昨年時点、緑地スペースとして芝
敷きと説明されていたが、未定である。今後の話し合い
による。

(6)スケジュール;別紙スケジュール表による。間もなく
工事を開始し、3月に運用を開始する。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域説明		●								
附船出張所建設工事										●
防火水槽設置工事				●						
消防器具置場設計		●								
消防器具置場建設工事										●
運用準備(引越等)										●



編集後記

新コミセンの開所に伴いコミ協の事務室も同所内に
新装開店した。10年前、小学校の「PTA室」に他グル
ープと同居で開設された事務室は2年前に旧コミセ
ンの倉庫に一時的移設し待機していた。いずれも狭くて、
窮屈であった。これらに比し新事務室は約 70平米の
広さで十分な機能を有している。約10台の会議用机
をはじめ、事務机2台、パソコン、コピー機及び書類戸
棚2台を配置できる。

事務室は組織的活動を維持する中核であって、種々の
会議の開催、コピーをはじめとする配布書類の作成、
関係資料の分別保存を実施することができる。
中でも、保存資料の活用はスタッフの交代を円滑にする
キーであって、本事務室の効用がその時に発揮される
と思う。

編集委員; 鈴木喬、高橋誠一、田村幸夫、高山ゆり子
古寺昭治、小島良子、阿部幹雄、風間幸一、宮尾益史